

病院のお仕事いろいろ

その1 細胞から病気を診る

細胞検査士

森河 由里子(もりかわ ゆりこ)
主任

みなさんは細胞検査士という職業をご存じでしょうか?よく分からないという方でも、喀痰(かくたん)検査や子宮がん検査などを受けられた方はい多いのではないのでしょうか。これらの検査で採取された検体を顕微鏡で観察し、がん細胞があるかどうかを見つけ出す検査を細胞診といいます。そして、細胞診を行う臨床検査技師を細胞検査士といいます。

細胞診は、がんの早期発見、治療の効果判定、再発腫瘍の確認などに用いられている検査法です。よく知られているのが、肺がん(喀痰)検査や子宮がん検査ですが、その他にも、乳腺や消化器(肝臓、胆のう、すい臓)、頭頸部(甲状腺、舌、口腔、咽頭、喉頭)など、ほぼ全身のがん診断に用いられ、体への負担も少ないことから、がん治療に欠かせない検査法となっています。

「細胞診は全診療科を対象としており、また本院は検査数も多いため、数多くの症例を経験することができます。多種多様な細胞を検査することにより、知識が広がり、より深い検査報告をすることができます。例えば、腹水があるがどこにも腫瘍が見当たらない症例で、腹水の細胞検査をしたとします。経験豊富な細胞検査士は、迅速に悪性の細胞を発見し、どの臓器のがんであるかを正確に分析することができます。がん細胞は数多くの種類があるため、積み上げられた経験や幅広い知識が必要になってきます。」

(森河細胞検査士)

現在本院の細胞検査士は、森河さんを含め2名です。今後は、細胞検査士育成のため後輩の指導にも力を入れていきたいと語ってくれました。



その2 手術以上の侵襲を防ぎその人に合わせた最適な看護を実践する

手術看護認定看護師

池添 照代(いけぞえ てるよ)
看護師

病気を治療する過程で、手術を受けなければならなくなった時、たとえそれがごく稀にある比較的簡単な日帰り手術であり、主治医の説明にも納得していても、少なからず不安を感じる方が多いのではないのでしょうか。そのような患者さんの不安や緊張を和らげ、手術中の安全を守ってくれる心強い味方が手術看護認定看護師です。

「麻酔で意識のない患者さんの擁護者は手術室の看護師です。患者さんが今までどのように病氣と闘ってきて、どのように病氣を受け止め手術を受けようと思ったのか。カルテの確認や患者さんとお話することによってしっかりと把握し、できるだけ患者さんの意志に添った看護を実践するよう心がけています。」(池添看護師)池添看護師は、手術中は常に患者さんの様子を確認し、必要に応じて褥瘡(じょくそう)を予防するための除圧を行うなど、麻酔で言葉を発することができない患者さんの代弁者として、手術による負担を最小限にとどめるケアを心がけ実践しています。その他にも、医療機器の準備や手術中の器械出し、患者さんの体位・体温の管理、遺残防止のための術後の機器確認など、小さなミスが重大な医療事故に繋がる緊迫した手術の現場で細心の注意を払いながら日々患者さんと向き合っています。

今後は、新たな取り組みとして行っているSSI(手術部位感染)ラウンドが形となり、術後感染をできるだけ減少させることができるように。さらには、手術を待っているご家族のケアや病棟との連携についても取り組んでいきたいと語ってくれました。

